



2010・10  
14号

花名 シュウメイギク

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

## 第2回 魅せる庭へ:オンリーワン

(社)兵庫県造園建設業協会 ※大谷 芽衣子

オープンガーデンに参加する場合、庭づくりにはオリジナリティが欠かせません。デザインや植物の選択、花の色や配置、量などにこだわった庭を見ると、庭主さんの努力とセンスに唸ることもしばしば。季節によっては花に限られるため、植えるもので差をつけることは難しい場合が多いですが、その中に一際光る工夫を見つけると感動します。

オリジナリティを出すために、オーナメントや臼、車輪などの廃物を使う場合もあります。しかしありきたりになってしまう事が多く、センス良く揃えて配置するのは意外に難しいものです。

今回は植物を利用しながら何かプラスすることで、独自のセンスが花開く庭づくりを紹介します。

### ■趣味と植物のコラボ

ご自身で作った植木鉢や塗装したトレリスはもちろん、手作りのピザ釜や、こだわって揃えたファニチャーを並べれば、それだけで世界で1つだけのあなたの庭です。更に趣味の陶芸で作った皿や集めた壺や仏像等を、寄せ植えと一緒に展示・装飾するなど、庭をアートや趣味の展示会場として活用すると面白いですよ。

お子様のミニ・ピアノ発表会や、オカリナの演奏、



庭に設置された手作りの陶器のできた照明。  
手作りのアロマキャンドルなども並べるとステキ。

絵の展示なんかも庭の花畑なら開放的でいいですね。花が表現するものをきっと引き立ててくれます。

お花仲間の他に、趣味を同じくする友達にも出会えるかもしれません。

### ■あなたの庭活用術を紹介

テラスやバーベキュー炉を庭に設置しているお宅も増えていますが、どのように使っているのだろうか？と思うところ。また、キッチンガーデンの野菜でどんな料理ができるのか知りたいというのが本音です。

けれど訪れる人々に料理を振舞うのは難しいので、かまどで作った料理の写真や、キッチンガーデンで採れる野菜を使ったレシピを用意しておくとかかりやすく、家庭の味を紹介することでオリジナリティを表現できます。野菜栽培の情報交換やレシピについて、来訪者と話が弾むことでしょ。



レシピと料理の写真をカードにすると、どの植物で何が出来のかわかりやすい

趣味や生活の知恵を自慢の花と一緒に発表することは、オリジナリティ溢れる庭づくりができるだけではなく、来訪者との意外な交流が楽しめます。花の腕や趣味の向上に繋げて、自信を持って自分を表現し、世界に1つだけの庭を作って下さい。

# 家庭菜園を楽しむ 第3回

兵庫県立農林水産技術総合センター  
技術参与 大西 忠男

## 1 たまねぎの仲間

たまねぎはユリ科の野菜です。ユリ科の野菜には、ねぎ、わけぎ、にんにく、らっきょう、にら、アスパラガス、リーキ、アサツキ、ゆりねなどがあります。アスパラガスとゆりね以外は、葉の形、ねぎ特有の臭いなど共通点がありますが、アスパラガスがたまねぎの仲間であるとは思えないものです。



<岩津ねぎ>



<わけぎ>



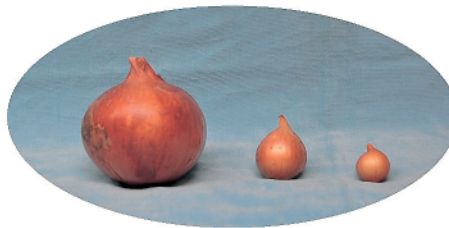
<リーキ>



<らっきょう>



<にんにく>



左 普通のだまねぎ (375g)  
中央 ペコロス (35g)  
右 オニオンセット (10g)

たまねぎの品種は、黄色系、赤(赤紫)色系、白色系の3種類がありますが、栽培されているのは、ほとんどが黄色系です。

日本のたまねぎ栽培の作型は、秋まきと春まきに大別でき、兵庫県では秋まき栽培が行われています。秋に植えたたまねぎは、春になると生育が旺盛となり肥大を始めます。たまねぎの肥大には日長と温度条件が必要で、早生種ほど短い日長で肥大が始まり、収穫も早くなります。地上部の生育適温は20~25℃ですが、早生種ではこれより低い温度でも生育します。

オニオンセット栽培は、極早生種、早生種品種を春に播種し、直径2~2.5cm程度の小さなたまねぎ(オニオンセット)を作り、吊り玉貯蔵し、8月下旬に植え付け、秋の温度、日長条件下で肥大させる栽培です。

## 図 たまねぎの作型と品種

作型	品種	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
秋まき超早出し栽培	極早生種(貴錦、トップゴールド320など)	●	●	●	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
秋まき早出し栽培	早生種(ソニック、七宝早生7号、緋だまりなど)		●	●	●	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
秋まき普通栽培	中生種(ターボ、ターザン、さつき、OP黄、湘南レッドなど)			●	●	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
	中晩生種(もみじ3号、ネオアース、パワー、淡路中高黄、猩々赤、くれないなど)											□	□
オニオンセット栽培	極早生種、早生種(シャルムなど)	●	●	●	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
春まき栽培	晩生種(スーパー北もみじ、カムイ、札幌黄など)												▼

凡例: ●:播種 ▼:定植 □:収穫 ---:育苗期間 —:栽培期間 .....:吊り玉貯蔵

注:赤字の品種は赤色系品種、他黄色系品種



### 3 たまねぎの機能性

特有の臭いは、硫化アリル、二硫化プロピルなど一連の硫化物で、生理的に興奮、発汗、利尿、消化液の分泌促進効果があります。生たまねぎは、カルシウムやリンなどのミネラルを含み、血液中の有害物質を清める働きがあります。

犬などのペットは、重度の溶血性貧血を起こすたまねぎ中毒があるので、注意が必要です。

### 4 栽培方法

#### ① 育種と苗の大きさ

収量は、苗の大きさによって決まります。苗の大きさを決定づけるのは播種時期です。品種にあった播種時期を守り、育種期間は55～60日で葉数が3枚以上、葉鞘部(根と緑の葉の間の白い部分)径6～8mm、苗重4～6gで根張りの良い苗を作ることが安定収量を得るポイントです。

#### ② 本田の管理

本田施肥量は、1㎡当たり成分で窒素、リン酸、カリとも20～25gです。窒素：リン酸：カリを各15%含む肥料では、133～166gです。この1/4を元肥として土壌改良資材、堆肥とともに土壌混和します。

マルチ栽培の場合は、全施肥量の80%程度の肥料を土壌改良資材、堆肥を施用し、耕耘畝立てしてマルチを張ります。

畝幅は、120～135cm、2～4条植え、株間10.5～12cmです。植え付けの深さは、葉鞘部の約1/2が埋まるように植えます。

中生種、中晩生種の追肥は、12月、2月、3月のいずれも中下旬の3回施用します。12月、2月の追肥を行わないと抽苔(トウ立ち)が多くなります。3月中下旬の追肥は春以降の生育を促進させます。

たまねぎは雑草が発生すると肥大は著しく悪くなります。特に冬の間が発生した雑草は肥大に大きく影響するので、早めに除草することが大切です。マルチ栽培では、たまねぎの株元に雑草が生えるので抜き取るようにします。

肥大する時期に土壌が乾燥すれば、肥大が悪くなるので灌水を行います。

#### ③ 病害虫防除

たまねぎ栽培で最も被害が大きな病気はべと病です。本病は、秋から冬の間感染した株が第一次感染源で、越年罹病株と呼ばれています。

春先にこの罹病株を抜き取ることが感染拡大を防止する第一歩です。べと病は5月上旬に発生する病気ですが、感染時期は3月下旬～4月上旬であり、この時期が薬剤散布の適期です。

#### ④ 収穫・貯蔵

肥大が進むと葉は倒伏します。これはたまねぎが成熟したしるしですが、倒伏後も肥大が進みます。F1種の中生種、中晩生種の収穫時期は、倒伏約1週間後で、莖葉部がしっかりしていて、引き抜き、吊すことが可能である状態の時に収穫をします。

「淡路中甲高黄」のような固定種では、80%程度が倒伏した時が貯蔵性がよく、収穫後すぐに食材として利用する場合はもう少し遅く太らせてから収穫します。

貯蔵のポイントは、軟腐病など病気にかかった球を貯蔵しないこと、風通しをよくし、直射日光をあてないように北側の軒下などに吊して莖葉部を早く乾燥させることです。



<べと病の越年罹病株>

### 5 ペコロス

シチュー、カレーやピクルスなどに丸ごと料理ができる直径3.5cm程度のミニたまねぎのことです。この栽培方法は、早生系の品種を9月上旬に播種し、播種後55～60日の苗を畝幅120cmの畝に条間4.5cm、株間5cm程度に密植して植えます。収穫は直径4cm程度に肥大した株を間引くように行います。収穫したたまねぎは吊り玉で乾燥、貯蔵します。

# ガーデンクラブの紹介

## 報徳学園中学・高等学校 園芸部

顧問 清水 健之

### ○発足の経緯

私が顧問を引き継いだ昭和49年にはすでに伝統的なクラブとして存在していたので、発足の経緯は不明ですが、40年以上の歴史があると思われます。

### ○活動の紹介

報徳学園といえばスポーツの盛んな学校として知られていますが、決してスポーツ学校ではありません。確かに多くの運動クラブが毎年全国大会に出場し好成績をあげていますが、文科系のクラブも、各種大会・コンクールに入賞するなど、大きな実績を残しています。

園芸部は、現在部員は5名。年間の花壇計画を作成し、種まき、育苗、植え付け、除草、花がら摘み、採種まで全て部員たちの手で行います。園芸部のポリシーの一つは「苗は買



チューリップ球根の植え付け

わず、全て種から育てる」ことです。「美しい花を咲かせる」という結果だけを求めるのであれば、出来上がった苗を買って植え付ければ手っ取り早いのですが、手を泥まみれにし、色々な失敗を重ね、自分たちで苦労して育てた苗だからこそいっそう愛着が湧くものです。花壇に植え付け、開花させた時の部員たちの充実感に満ちた顔は何にも代え難いものです。

本校は来年で創立100周年を迎えます。その記念事業の一環として現在新校舎を建築中で、この5月まで溢れるように咲き誇っていた中庭花壇や、校舎の周囲を彩っていた花壇は解体されました。現在園芸部の活動はプランター栽培中心の小規模なものになってしまいましたが、今は充電期間と考え、新校舎完成の暁には、新しい花壇で従来に負けないくらい立派な花を咲かせたいと部員一同希望に胸を膨らませています。



パンジーの植え付け

## チルドレン・スポット (いたみコミュニティ花壇)

代表 田中 妙子

### ○発足の経緯

緑化協会から、放置されて荒地となっていた花壇の再生の依頼があり、家のすぐ近くという気安さもあって、平成17年に近所の花好き6名によってスタートしました。



### ○活動内容

花壇づくりに関する目標をたてて取り組みました。  
・地域住民に喜んでもらえるスポット(花壇)づくり  
・通りがかりの人が、覗きたいと思うような景観的な花壇  
・メンバーである私たちが楽しんで花壇づくりをする、等々少々ハードルの高い目標でしたが、今では地域の方々から、「いつもきれいな花をありがとう」とか「ここ



を通るのが楽しみ」と声をかけられるようになりました。

また、昨年度はひょうごまちなみガーデショー初応募で、いきなり最優秀賞(明石市長賞)もいただき、これまでのメンバーのこだわりと熱意が実ったものと思います。

### ○今後の課題

県や市からの限られた助成の中で、ローコスト、ローメンテナンスの維持管理の方法や、低木や、宿根草、種まき等についての知識を身につけ、一層のスキルアップを図りたいと思います。

## さくらグリーンネットワーク

代表 岡井 久夫

### ○発足の経緯

大阪・神戸・姫路・たつの・黒田庄等の地域で活動していた約10のクラブが、お互いに情報交換をしながらより安い会費でもっと自由に活動したいとの思いから、8年前にクラブの合同体としてスタートしました。

### ○活動内容

会の名前の由来でもある、4月の花見から活動を開始。6月の里山寄せ植えコンテストや10月のひょうごまちなみガーデンショー参加、11月の信州や但馬での自然観察会、その他、随時講習会や懇親会等を行っています。専門技術をもっている会員がいるので、年度によってはシリーズの講習会を開催することもあります。

また、県立やしらの森公園でのボランティア活動を通して、腐葉土やススキのチップを作ったり、竹材を焼いてコンテナ



やしらの森腐葉土づくり

を作るなど、手作りにこだわっています。

月刊で発行している広報誌「さくらグリーンネットワーク通信」は、A4版両面カラーで、表面を活動の紹介や、事業の予定、会員募集の案内を掲載し、裏面は季節の植物を専門的・文学的に紹介し、会員の知識・教養の向上に努めています。毎月の第一水曜日には例会を行い、誰でも参加できるようにしています。



但馬自然観察会八代の大ケヤキ

事業の一つ一つは、会員の交流や知識・技術の習得を目指していますが、こうした活動経験が、それぞれの地域やグループで生かされることが最終の目的です。一人からでも会員になれます。お気軽にご参加下さい。

## バーベナあわじ

代表 上田 治子

### ○発足の経緯

友人の誘いで旅したニュージーランド、クライストチャーチの花と緑の美しい景観の街並みに感動して、淡路島も「震災の島から花の島へ」との想いで平成10年発足。現在は会員約100名、「花で仲間と幸せを」を合い言葉に“花の輪、人の輪(和)、幸せの輪”を広げようと活動を展開。高齢化が気になりますが、今年で13年目を迎えています。

### ○活動の4本柱

#### ①沿道緑花活動

草ぼうぼうの荒れ果てた沿道の公共用地9か所を花壇に修景し、管理しています。

#### ②人づくりふれあい福祉活動

園児や小学生に優しい心が育って欲しいと、緑花活動教室を開いたり、花壇の手入れを一緒にしたり、福祉施設で寄せ植え教室等を開いて、ふれあいの場を提供しています。



子どもたちと花壇作業

#### ③緑花啓発活動

講演会、園芸教室、寄せ植え展等の開催や、研修旅

行、淡路島伝統イベントの「島祭り阿波踊り大会」でバーベナあわじ連を繰り出して「花と緑のまちづくり」や「CO2を減らそう」うちわをイベント会場で配ったりしています。

### ○今後の抱負

今年淡路島で開催された淡路花博2010花みどりフェアでの皇太子殿下御啓啓の際、思いもよらず殿下に当会の活動報告をさせていただきました。活動のパネルを示しながらの説明に、うなずかれながら熱心にお聞き下さり、励ましのお言葉もいただきました。当会員も、日の丸の小旗を振ってお出迎えとお見送りをして、殿下の笑顔から元気を頂きました。このような栄誉に感謝し、今後も“人と自然の共生・コラボレーション”の大切さを次世代に伝えるため、また「環境立島淡路公園島づくり」達成に向けて活動を進めたいと思っています。



皇太子殿下に活動のパネルを示しながら説明

## グリーンメッセージ

# 花と緑のまちづくりと維持管理

**兵庫県の美しい県土づくり施策は花緑団体の参画と協働によって支えられています。**

兵庫県では、花と緑による美しい県土づくりを県政の重要課題の一つとしており、ひょうご花緑創造プランに基づき「地域に応じた持続可能な取り組み」「ソフト重視の様々な取り組み」「多様な主体の参画と協働」を重要な視点として、点から線へ、そして面的広がりを目指し、行政や県民活動により積極的な取り組みを行っていくこととしています。

また、平成18年度から「県民緑税」による県民まちなみ緑化を制度化し、環境、景観、防災に効果的な緑化を積極的に進めています。



<素晴らしい沿道緑化>

### 一方、現状では課題もあります。

視認性の高い沿道緑花は、そのまちや地域の印象を決定づけ、景観まちづくりや観光振興、さらに地域活性化にも大きな役割を果たします。しかし最近、県内各地を廻ってみますと、道路の植栽が、雑草に覆われたり、水枯れで茶色くなったり、強剪定で丸裸にされていたり、ポイ捨て空き缶などのゴミ捨て場になったり、とても見苦しい景観になっていることが目につきますか？我が国は温帯モンスーン地帯ですから、植物の生長は大変旺盛で、美しい植栽を維持していくためには、除草、水やり、剪定、施肥等適度な維持管理が必須なのです。行政により計画的に植栽された植物が、維持管理不足のためにこうした状態を招いているのです。これでは、何のために植栽したのか分かりません。

平成18年の「のじぎく国体」開催時には、全国から来訪されるお客様を気持ちよくお迎えするとして、素晴らしい沿道緑花を実現しましたが、現状を見ると、結局、国体のためだけの一時的な対応だったと思えてくるのです。気持

(財)兵庫県園芸・公園協会理事兼  
花と緑のまちづくりセンター長  
石原 憲一郎



ちよくお迎えするための沿道緑花の重要性は、現在も全く変わっていないのですが・・・。

財政事情等により国も県も市町も、維持管理にかかる予算が激減しているのが大きな理由ですが、現状の荒れ具合を見ると、もはや限界を超えているように思います。

一方、こうした「草ぼうぼう」の醜い現状を見て、特に気にならなくなった行政や住民の美意識の劣化も、大きな問題です。



<維持管理不足の沿道>



### 沿道緑化の維持管理、今後の課題は・・・

一義的には道路管理者の責務ですが、近年、参画と協働により、花と緑を活用した地域づくりやまちづくりに取り組む住民活動グループが多くなっていますので、道路管理者は、そのフィールドとして提供し、協力を仰ぐ必要があるのではないのでしょうか？しかも緊急に！

また、行政の計画やかけ声がいくら立派でも、予算の関係でこのような現場の状況が生まれるなら、そもそもの植栽計画の根本から考え直す時期にきているのかも分かりません。美しい樹木や草花で新たな植栽をしても、不十分な維持管理で、枯死したり、荒れていくこの悪循環は、是非とも止めなければなりません。

# ●●● 季節の園芸相談 ●●●

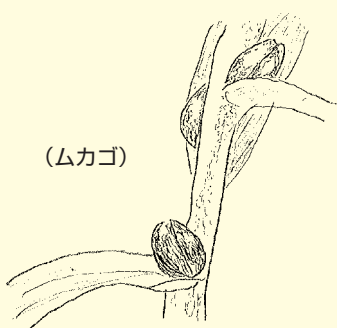
相談員 本白水 守・合田 薫

## ユリのむかごで花を咲かせるには

**Q** 鉢植えのユリの茎に小さな球根のようなものが生えています。これは「むかご」でしょうか？

このようなものから花を咲かせることができるでしょうか、教えてください。

**A** 茎と葉の付け根に芽キャベツのようなものが付きます。それをむかごと呼んでいます。オニユリやカサブランカ等にはむかごがつくことがあります。それを植え付けてから花を咲かすには、早くても2～3年かかります。早く咲かせたいのなら、鱗茎（ユリ根）を植えた方がよいでしょう。その株が気に入って、ぜひ再び咲かせたいのなら、気長にチャレンジしてみてください。むかごをは手で触って落ちるまでつけておきます。



## アガパンサスの育て方

**Q** アガパンサスのふやし方を教えてください。

**A** 多年草で庭に植えっぱなしでもよく育ち、6月～7月の梅雨時期から明けぐらいいに花が咲き、草丈は60～80cmぐらいいに達します。ボーダー花壇や広いスペースに植えると見事です。鉢植えや寄せ植えには向きませんが、強健な性格はオススメです。

### <栽培適地>

日当たりと水はけのよい場所なら、特に土質は選びません。半日蔭地でも育ちますが、花つきが悪くなります。

### <ふやし方>

おもに株分けで10月か3月に行います。地植えの場合植替えは3～5年に1回程度でよい。あまり細かく分けないように気をつけましょう。

種からでも殖やすことができますが、咲くまで4～5年を要します。

### <冬越し>

寒さには比較的強く、暖地では戸外で冬越しできます。霜にあたって葉が枯れても、球根の状態ですぐ冬を越し、春には芽が出てきます。



(アガパンサス)

## ヨトウムシなどの害虫の上手な防ぎ方

**Q** 野菜を育てていると、害虫に悩まされることが多くて、野菜の栽培が厭になってしまいます。どうしたらいいのでしょうか。

**A** キッチンガーデンで育てた野菜を食卓に提供するまでにいろいろな難関が待っています。中でも害虫の発生はやる気を打ち砕く最大のものではないでしょうか。そういう筆者も害虫に手を焼いています。虫好きのせい、なんとか虫たちの裏をかいてやりたいと常々考えております。その一端を紹介しましょう。

今年の春にヨトウムシを防ぐために落とし穴（空の4号鉢を埋め込み、その中に野菜くずを入れる）を設置しました。朝にはヨトウムシが何匹も入っていました。さらに少し大きめの底を抜いたビニールポット（10号程度）を土中に半分埋め込み、その中に土を入れ、野菜の苗を植えました。幼虫はビニールの壁を登れないのか、被害がほとんどありませんでした。農薬のあまり効かない虫たちに一矢報いた気分はいいものです。

## \*\* 園芸相談コーナー \*\*

写真や実物をご持参いただきますと、お話ししやすくなります。

Tel 078 (918) 2405  
10:00～16:00

Fax 078 (919) 5186

Eメールアドレス：info\_midori@hyogopark.com

★★お気軽にどうぞ★★

# 県下の公園紹介

## 第5回 ☆☆☆ 兵庫県立 フラワーセンター

兵庫県立フラワーセンターは、花に関する知識の普及及び栽培技術の向上と憩いの場を提供する公園機能を兼ね備えた施設として昭和51年に開園しました。合わせて潤いのある郷土づくりと花と緑を普及する拠点施設と位置づけられています。

自然の松林に囲まれた46畝の園内は中央に満々と水をたたえた亀の倉池、南国ムードあふれる大温室や大小様々な花壇や樹木園で構成されています。

### 花壇

中央花壇、四季の花壇等には、春は約450品種、30万本のチューリップで埋め尽くされ、夏はサルビア、マリーゴールド、秋はキク、冬はピオラやハボタンなど、季節毎に花壇に植える草花の数は年間60万株に及びます。



風車前花壇

### 樹木・花木

サクラ園、バラ園、シャクナゲ園、ツバキ園、ハナショウブ園のほか、アジサイ、ツツジ、ハギの小道や宿根草園ではそれぞれ季節の花が楽しめます。



モミジバフウ

### 第33回兵庫県連合菊花展覧会

10月17日(日)～11月21日(日)に県下最大級の菊花展覧会を催します。県下の菊名人が、丹精こめた作品、懸崖菊や大菊、盆栽菊約2,000鉢を展示します。また、会期中は、無休で開園します。



菊花展覧会

**大温室** 熱帯、亜熱帯地方の清楚な花や大輪の花が咲き乱れています。中でも、ペゴニア、ストレプトカーパス、食虫植物は国内でも有数のコレクション数を誇っています。

ご利用についてのお問い合わせ 兵庫県立フラワーセンター

〒679-0187 加西市豊倉町飯森1282-1 TEL. 0790-47-1182 FAX. 0790-47-1561

# わが公園のこの一本

## 甲山森林公園の「ヤマモモ」

ヤマモモは、甲山森林公園を代表する樹木の一つです。公園正門脇や第一駐車場裏の甲山大師の参道には、かつて西宮市が「甲山自然植物園」として開園していた頃に植栽されたと思われる大木があります。その後兵庫県立甲山森林公園として整備された際に、園内各地にヤマモモが多数植栽されました。シンボルゾーンのプロムナードや南入口周辺、ターザンコーナー付近に集中的に植えられ、40年以上を経て立派な大木に育っています。ヤマモモは根に放線菌が共生していて空気中の窒素分を養分として取り込めるので、マメ科の植物同様自然にすくすく育っていきます。

ヤマモモはオスの木とメスの木があり、園内にはメスの木が多数ありますが、立派な実のなる木はいつも決まっているようです。隔年ごとの結実が一般で、果実の最盛期は6月下旬です。完熟した紫赤色の実は生で食べても甘酸っぱく、なかなか美味です。

果実は日持ちしないので広い地域への流通はなく、地元消費型で四国や九州では果物として食べられています。また関東や中部地方では、庭木として植えられているようです。街路樹として植栽されているのにも、たくさんの果実が成っていますが、食べられずに落ちてしまい、道路が赤く染まっているのを見かけます。ヤマモモの花はガクも花弁もないので目立たず、果実の美しさやおいしさに軍配が上がります。



<ヤマモモ>

<中央広場のヤマモモ>

## 花と緑のまちづくりセンターだより 14号

- 平成22年10月1日(年4回発行)
- 編集発行 財団法人 兵庫県園芸・公園協会理事兼  
花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎  
〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター  
TEL : 078(918)2405 FAX : 078(919)5186  
Eメール : info\_midori@hyogopark.com

### ～ 編集後記 ～

今夏の甲子園での大活躍が記憶に新しい報徳学園。本紙で紹介したとおり、園芸の世界でもピカッと光る活動が印象的でした。全て種から育て、水やり、施肥、草取りなど全て手作業。採取した種は保護者や生徒たちにも配布され、学園緑化に留まらず、広く緑花運動にも貢献されています。若い園芸家たちの地道な活動が2010ガーデンコンペの兵庫県知事賞の荣誉に繋がりました。